

第 69 年度（令和 4 年度）事業報告書

令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで

大阪府中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号

公益財団法人 篷 庵 社

第 69 年度（令和 4 年度）事業報告

（令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日）

I. 事業の概要

本財団は、薬学等の進歩発展に資するため必要な研究を行うものに対し、研究の助成並びに研究費の援助を行い、もって薬学の発展に寄与することを目的として、主要事業およびこれに付帯する事業として以下の活動を実施した。

II. 事業の内容

1. 研究助成金の交付

令和 4 年度の研究助成金として、研究助成（全国対象 20 件 1,000 万円）、および特別研究助成（近畿 2 府 4 県以西対象 8 件 2,000 万円）、計 28 件 3,000 万円を交付した。

1) 研究助成（50 万円/件・年）：

4 年目：5 件、 3 年目：5 件、 2 年目：5 件、 新規：5 件

計 20 件 計 1,000 万円

2) 特別研究助成

（近畿 2 府 4 県以西対象，250 万円/件・年）：

2 年目：4 件、 新規：4 件

計 8 件 計 2,000 万円

総計 28 件 計 3,000 万円を交付した

各助成金の交付先は【別紙 1】の通り。

2. 令和 5 年度助成事業対象者の募集および審査・選考

1) 令和 5 年度特別研究助成

（1）募集テーマ等の決定

令和 4 年 5 月 11 日の第 1 回選考委員会・企画会議にて、令和 5 年度特別研究助成の募集テーマの選定および募集要項等の審議を行い、募集テーマを「健康寿命の増進に貢献する挑戦的研究」に決定し、審査分野を薬学系と医学系に分けて募集することとした。募集方法については、募集要項を近畿 2 府 4 県以西の大学等研究機関へ郵送および篷庵社ホームページへの掲載により公示することとし、Web システムによる応募とした。また募集期間を令和 4 年 9 月 1 日から 10 月 31 日とすることも決定した。これらについて令和 4 年 5 月 18 日に選考委員長から理事長へ答申し、同年 6 月 22 日開催の理事会にて承認可決した。

(2) 募集および審査選考

令和4年9月1日から10月31日までの募集期間に薬学系15件、医学系30件、合計45件の応募があった。これらについて同年11月8日に選考委員長から選考委員に第一次審査としてWebシステムで書面審査を依頼し、令和5年2月8日開催の第2回選考委員会にて書面審査の結果を基に審議し、令和5年度助成者の選考等を行い、薬学系2名、医学系2名、計4名を助成者候補として決定した。結果について、令和5年2月15日に選考委員長から理事長へ答申し、令和5年3月8日開催の理事会にて承認可決した。

2) 令和5年度研究助成

(1) 募集および第一次審査

令和4年3月22日理事長より8名の理事及び評議員に令和5年度研究助成の候補者の選出を依頼し、徳島大学、北海道大学、京都大学、高崎健康福祉大学、東京医科歯科大学、大阪大学、九州大学等全国から8名の候補者が選出された。令和4年5月11日の第1回選考委員会・企画会議にてこれらの候補者の第一次申請書の審査を研究業績および当財団の目的に適う人物であるか等、以下のチェックポイントの観点から審議を行った。

- ・優秀な素質を有するが、財源不足等のため研究の継続が困難である研究者
- ・他からの助成を受けにくい薬学等の基礎研究を行なっている研究者
- ・特に若手の独立前後で将来有望な研究者

審議の結果、5名を第二次審査の候補者として選定した。

以上の結果について、令和4年5月18日に選考委員長から理事長へ答申し、同年6月22日開催の理事会にて承認可決した。これら5名について同年7月27日に理事長より各選出者に第二次申請書の作成を依頼した。

(2) 第二次審査及び選考

第一次審査にて決定された5名について、第二次申請書により書面審査を行い、その結果を基に令和5年2月8日開催の第2回選考委員会にて審議し、この5名を令和5年度研究助成の被助成者候補とすることを決定した。以上の結果について、令和5年2月15日に選考委員長から理事長へ答申した。

令和5年3月8日開催の理事会にて、各候補者の選出者より研究概要及びチェックシート【別紙2】の内容、また当財団の目的に合った研究者であること等詳細に説明し質疑応答を行ったのち、理事会にて慎重に審議してこれら5名について令和5年度研究助成対象者として承認可決した。

3. 研究成果報告【別紙 3】

第 41 回研究助成発表会を令和 4 年 7 月 15 日、ヒルトン大阪（大阪府大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催した。

新型コロナウイルス感染症対策として、聴講者の制限及び懇親会の中止等、規模を縮小して開催した。

III. 財団運営の概況

1. 理事会の決議事項

(1) 書面開催：令和 4 年 5 月 6 日（理事会決議があったものとみなされた日）

議題 1：評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定の件

原案通り承認可決した。

議題 2：第 68 年度（令和 3 年度）事業報告の件

第 68 年度（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）事業報告書について原案通り承認可決した。

議題 3：第 68 年度（令和 3 年度）決算書承認の件

第 68 年度（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）決算について原案通り承認可決した。

議題 4：法人会計収益の公益目的事業への振替の件

原案通り承認可決した。

(2) 令和 4 年 6 月 22 日（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：第 68 年度（令和 3 年度）定期提出書類の件

原案通り承認可決した。

議題 2：令和 5 年度特別研究助成募集テーマ及び募集要項決定の件

原案通り、令和 5 年度特別研究助成の募集テーマを「健康寿命の増進に貢献する挑戦的研究」とすること等、承認可決した。

議題 3：令和 5 年度研究助成第一次審査の件

令和 4 年 5 月 11 日開催の選考委員会の決議通り、研究助成 5 名を原案通り承認可決した。

議題 4：学術委員選任の件

原案通り承認可決した。

報告事項 1：理事長は令和 4 年度 1 回目の業務執行状況報告を行なった。

(3) 書面開催：令和 4 年 12 月 20 日（理事会決議があったものとみなされた日）

議題 1：評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定の件

原案通り承認可決した。

議題 2：企画会議規程改定の件

原案通り承認可決した。

(4) 令和 5 年 3 月 8 日（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：第 70 年度（令和 5 年度）事業計画承認の件

第 70（令和 5 年度）事業計画として研究助成金の交付件数を 28 件とすること及び令和 5 年 7 月 7 日に第 42 回研究助成発表会を開催することを原案通り承認可決した。

議題 2：第 70 年度（令和 5 年度）収支予算承認の件

第 70 年度（令和 5 年度）収支予算について原案通り承認可決した。

議題 3：法人会計収益の公益目的事業への振替の件

原案通り承認可決した。

議題 4：資金調達及び設備投資の見込みの件

原案通り承認可決した。

議題 5：令和 5 年度特別研究助成 受領者決定の件

令和 5 年 2 月 8 日開催の選考委員会の決議通り、令和 5 年度新規助成者について特別研究助成 4 名を原案通り承認可決した。

議題 6：令和 5 年度研究助成 受領者決定の件

令和 5 年 2 月 8 日開催の選考委員会の決議通り、研究助成 5 名についても慎重審議の上、原案通り承認可決した。

議題 7：選考委員長選任の件

原案通り承認可決した。

議題 8：70 周年記念事業の件

原案通り承認可決した。

報告事項 1：理事長は、令和 4 年度 2 回目の業務執行状況報告を行なった。

2. 評議員会の決議事項

(1) 令和 4 年 6 月 22 日定時評議員会

（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：議長選任の件

互選により選任した。

議題 2：議事録署名人選任の件

互選により 2 名を選任した。

議題 3：第 68 年度（令和 3 年度）事業報告及び決算書承認の件

第 68 年度（令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日まで）貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録等について原案通り承認可決した。

議題 4：法人会計収益の公益目的事業への振替の件

原案通り承認可決した。

(2) 令和 5 年 3 月 8 日（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：議長選定の件

互選により選定した。

議題 2：議事録署名人選定の件

互選により 2 名を選定した。

議題 3：第 70 年度（令和 5 年度）事業計画承認の件

第 70 年度（令和 5 年度）事業計画として研究助成金の交付件数を 28 件とすること及び令和 5 年 7 月 7 日に第 42 回研究助成発表会を開催することを原案通り承認可決した。

議題 4：第 70 年度（令和 5 年度）収支予算承認の件

第 70 年度（令和 5 年度）収支予算について原案通り承認可決した。

議題 5：資金調達及び設備投資の見込みの件

原案通り承認可決した。

報告事項 1：令和 5 年度特別研究助成・研究助成 受領者決定の件

報告事項 2：選考委員長選任の件

報告事項 3：70 周年記念事業の件

3. 報告事項

(1) 令和 4 年 5 月 30 日

大阪府中央府税事務所長より令和 4 年 5 月 27 日付の、令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日までの「法人府民税の均等割減免通知書」を受領した。

(2) 令和 4 年 6 月 27 日

行政庁（内閣府）へ第 68 年度（令和 3 年度）事業報告書および監査報告書を提出した。

(3) 令和 5 年 3 月 24 日

行政庁（内閣府）へ令和 5 年度事業計画書および収支予算書等の定期提出書類を提出した。

以上

令和4年度研究助成金交付先一覧表

◆ 研究助成 (1件50万円×20件=計1,000万円)

| 助成 | 所 属 (申請時) | 研 究 者 名 | 研 究 テー マ |
|-------------|---|---------|--|
| 4 年 目 | 大阪市立大学大学院 医学研究科 | 塩田 正之 | 熱ショックタンパク質 70 のがん進展における機能解明と治療標的化 |
| | 千葉大学大学院医学研究院 診断病理学・病理診断科 | 池田 純一郎 | 治療標的となるがん幹細胞の可塑性に関与する因子の検討 |
| | 東京大学大学院薬学系研究科 | 花岡 健二郎 | 生体深部の可視化を目指したバイオイメーjingグプローブの創製とその応用 |
| | 日本医科大学 生化学・分子生物学(代謝・栄養学)/共同研究施設 分子解析研究室 | 早川 清雄 | 細胞内脂質調節薬剤の開発と炎症制御メカニズムの解析 |
| | 京都大学大学院工学研究科 | 三木 康嗣 | 水溶性近赤外光増感分子の開発と腫瘍セラノスティクスへの展開 |
| 3 年 目 | 大阪大学大学院薬学研究科 | 井川 貴詞 | 高歪み多環芳香族炭化水素の革新的合成 |
| | 国立医薬品食品衛生研究所 | 佐藤 薫 | 不飽和脂肪酸のグルタミン酸トランスポーター制御機構の解明と中枢神経系創薬への応用 |
| | 大阪大学産業科学研究所 | 滝澤 忍 | 環境低負荷型不斉ドミノ反応の開発と多官能性キラル複素環骨格構築への展開 |
| | 徳島大学大学院医歯薬学研究部(薬学域) | 立川 正憲 | ヒト血液脳関門透過機構に基づく脳細胞標的化微粒子創製の基盤構築研究 |
| | 福井大学学術研究院医学系部門・分子生体情報学分野 | 山田 雅己 | 核移行因子 KPNA1 による軸索輸送制御メカニズムとその生理的意義の解明 |
| 2 年 目 | 大阪薬科大学 病態分子薬理学研究室 | 大喜多 守 | 急性腎障害に併発する血管機能障害に対する薬理学的研究 |
| | 北海道大学大学院先端生命科学研究院 | 北村 朗 | 神経変性疾患の核酸医薬創薬に向けたシャペロン RNA の実証 |
| | 富山大学 学術研究部 薬学・和漢系 | 久米 利明 | 新規アルツハイマー病モデルマウス由来組織を用いたタンパク質プロファイリングによるバイオマーカーの探索ならびに薬効予測系の開発研究 |
| | 岐阜薬科大学 | 田原 耕平 | 粘膜バリア突破型微粒子による革新的 DDS の創製と細胞機能制御 |
| | 三重大学 大学院医学系研究科 統合薬理学分野 | 西村 有平 | データ駆動型アプローチとゼブラフィッシュを用いた肝庇護薬探索 |
| 新 規 | 東京大学 大学院薬学系研究科 | 上野 匡 | 機能性小分子を応用した細胞内シグナル伝達の操作と可視化 |
| | 広島大学 両生類研究センター 発生研究部門 発生再生シグナル研究ユニット | 鈴木 厚 | 誘導因子シグナルによる胚発生と組織再生の制御機構 |
| | 富山大学 学術研究部 薬学・和漢系 | 南部 寿則 | 高反応性スピロシクロプロパンの開裂一環化反応を用いる新規環状化合物合成法の開発とその応用 |
| | 大阪大学大学院 基礎工学研究科 | 久木 一朗 | ねじれたパイ共役分子を用いた水素結合性キラル多孔質結晶材料の開発 |
| | 日本大学文理学部生命科学科 | 安原 徳子 | 核輸送因子 importin α の細胞内機能の切り替えとその生理作用の解明 |

◆ 特別研究助成 (1件250万円×8件 = 計2,000万円)

| 助成 | 所属 (申請時) | 研究者名 | 研究テーマ | |
|-------------|----------|--|--------|---|
| 2 年 目 | 薬学系 | 大阪大学大学院薬学研究科 | 樋野 展正 | がんゲノム変異により異常をきたすタンパク質間相互作用の効率的同定と新規創薬標的の探索 |
| | 薬学系 | 京都府立医科大学大学院医学研究科 | 大庭 誠 | がんの核酸医薬治療を目指したペプチド材料の開発 |
| | 医学系 | 神戸大学医学部附属病院 | 福本 毅 | Hippo-YAP 経路によるメラノサイトの老化制御のがん化進展における役割の解明とその新規作用点を標的とする独創的治療戦略の開発 |
| | 医学系 | 公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院 | 稲野 将二郎 | ユビキチン化酵素融合 nanobody から創り出す、新しい細胞内分子標的がん治療 |
| 新 規 | 薬学系 | 九州大学 大学院薬学研究 院疾患制御学分野 | 仲矢 道雄 | 線維化関連難治性疾患の創薬標的分子の同定とその治療応用 |
| | 薬学系 | 大阪大学 大学院薬学研究 科 | 武村 直紀 | 細胞外微粒子による炎症応答を抑える高活性化化合物の機能解明と間質性肺炎治療への応用 |
| | 医学系 | 川崎医科大学 医学部 分子 遺伝医学教室 | 大友 孝信 | 小胞輸送障害により生じる新規疾患の病態解明と、幅広いリソソーム病治療法開発への応用 |
| | 医学系 | 大阪大学 大学院医学系研究 科 創薬神経科学共同研究 講座/分子神経科学講座 | 糸数 隆秀 | 生体内異種細胞間相互作用に着目したパーキンソン症候群新規治療ストラテジーの創出 |

公益財団法人蓬庵社 XXX 年度研究助成申請書作成チェックシート

選出条件【必須】

満たされているかご確認ください。

| | |
|------------------------------|--------------------------|
| ● シオノギ製品を用いた臨床研究を含まない研究であること | <input type="checkbox"/> |
| ● 候補者の年齢は満 55 歳以下であること | <input type="checkbox"/> |

選出条件

以下について、いずれかの内容が記載されているかご確認ください。

※いずれかの項目に該当するものが一つでもあれば、対応する(1)～(3)のチェック欄にチェックを入れてください

| | | |
|---|---|--------------------------|
| (1) 優秀な素質を有するが、財源不足のため研究の継続が困難である研究者 | | <input type="checkbox"/> |
| 1 | 候補者の学歴及び職歴が助成対象として相応しいか。 | |
| 2 | 最近 5 年間の発表論文リストの内容が助成対象として相応しいか。 | |
| 3 | 本研究を実施するために使用する研究施設・設備等、現在の研究環境の状況に不足が生じているか。 | |
| (2) 他からの助成が受けにくい薬学等の基礎研究を行っている研究者 | | <input type="checkbox"/> |
| 1 | 本研究は独立したテーマであり、助成の必要性・妥当性に問題ないか。 | |
| 2 | 本研究の全体構想及び研究目的について、特に次の点について焦点を絞り具体的かつ明確に記述されているか。 ①研究の学術的背景と現在の状況および、今後期待される成果 ②研究期間内に何をどこまで明らかにするのか | |
| (3) 特に若手の独立前後で将来有望な研究者 | | <input type="checkbox"/> |
| 1 | 候補者の年齢が特に若手の満 45 歳以下である。 | |
| 2 | 選出委員からみた候補者の研究遂行能力の高さ、研究分野で十分大きな役割を果たすと期待する理由の記述があるか。 | |
| (4) その他 上記以外で当財団の目的に適った研究者・テーマである場合は、理由をお書きください | | |
| | | |

推薦者は候補者と直接的な利害関係となる事実はありません。

推薦者：

第 41 回公益財団法人篷庵社研究助成発表会

日 時: 令和 4 年 7 月 15 日(金)10 時 30 分から 17 時 00 分

場 所: ヒルトン 大阪 ウィンドーズ

大阪府大阪市北区梅田1丁目8-8

| 10:30-10:35 | | ご挨拶 | 公益財団法人篷庵社 理事長 武田 禮二 | |
|-------------|-----------|---|-------------------------------------|----------------------------|
| | | 演 題 (講演 25 分、討論 10 分) | | 座 長 |
| 10:35- | 1. | オミックス解析による抗腫瘍薬の治療効果・有害事象発現を予測するバイオマーカーの探索研究 | 前川 京子 先生 (同志社女子大学薬学部) | 佐藤 公道 先生 |
| 11:15- | 2. | 慢性腎臓病増悪因子としての細胞外マトリックスの役割 | 鳥羽 裕恵 先生 (京都薬科大学 病態薬科学系 臨床薬理学分野) | 宮崎 瑞夫 先生 |
| 11:50- | 昼 食 休 憩 | | | |
| 12:45- | 新規助成者ご紹介 | | | |
| 13:05- | 3. | 電気生理技術を用いた難治性神経疾患の創薬標的分子の同定 | 井上 剛 先生 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科) | 桐野 豊 先生 |
| 13:45- | 4. | 胎盤関門透過の種差を生み出す機能分子の同定とその機能調節機構の解明 | 登美 斉俊 先生 (慶應義塾大学薬学部) | 寺崎 哲也 先生 代理 玉井 郁巳 先生 |
| 14:25- | 5. | 家族性高コレステロール血症における PCSK9 の意義の解明 | 堀 美香 先生 (名古屋大学 環境医学研究所 内分泌代謝分野) | 塩野義製薬(株) 雪岡 日出男 氏 |
| 15:00- | 休 憩 ・ 談 話 | | | |
| 15:30- | 6. | 脳疾患に対する自己幹細胞由来免疫細胞を利用した細胞性医薬品の開発 | 高田 和幸 先生 (京都薬科大学統合薬科学系) | 塩野義製薬(株) 堀口 直剛 氏 |
| 16:10- | 7. | 中枢疾患創薬を加速する全脳細胞解析による不安障害の標的分子の探索 | 笠井 淳司 先生 (大阪大学大学院薬学研究科) | 塩野義製薬(株) 小川 公一 氏 |

以上

前記のとおりご報告いたします。

令和5年6月

公益財団法人 篷 庵 社

理事長 武 田 禮 二

附属明細書

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和5年6月

公益財団法人篷庵社